

# CARE World

Vol. **7** ケア・インターナショナル ジャパン  
Newsletter  
October 2007



ケア・インターナショナル ジャパンは、世界70カ国で貧困の根源の解決に取り組む国際協力NGO、CAREのメンバーです。CAREの活動は、世界中の33万人のサポーターに支えられています。

## Contents

- page **2** 2007年度事業計画
- page **5** 事務局からの報告  
ケア・インターナショナル ジャパン  
支援組織講演会  
広島平和記念資料館にて60年前の「ケア・パッケージ」を展示  
世界難民の日イベントに参加 ほか
- page **7** 東ティモール  
「テトゥン語民話集出版プロジェクト」  
最新報告 事業部 竹中 宏美  
私スタイルのCAREライフ  
CARE ボランティアメンバー 稲垣 佳奈
- page **8** CARE ストーリー ~パキスタン  
「両親も家も失い、自らの命も危機的状況に置かれた少年がCAREの支援を受けて…」  
CARE Notice Board

## パキスタンにおいて 緊急支援事業を実施中



現地で活動を行うプロジェクトマネージャーの熊澤ゆり

### 2007年6月にパキスタン南部を通過したサイクロンは、

南西部2州と山岳部1州の広範囲に雨・高波・洪水による大きな被害をもたらしました。ケア・インターナショナル ジャパンは、7月13日～23日の間、スタッフ2名を避難生活者が約17万人にも達する南部シンド州の視察に派遣しました。

視察時には、被災地は広範囲にわたって水没しており、幹線道路沿いや川の土手に

は、頼る親類のいない貧困層の人々が主に防水シートで屋根を作っただけのテントで生活していました。安全な水やトイレが十分に確保できず、被災者の間に下痢・皮膚感染症など劣悪な衛生状態に起因する健康への悪影響が出ていました。CAREはこの状況をふまえ、ジャパン・プラットフォームによる事業助成金を得て、最も支援が届いていない地域の一つであるシンド州カンパー・シャダッドコット県ワラ郡で、衛生状態の改善による感染症の予防・治療・流

行拡大の阻止を目的に緊急支援事業を開始しました。

プロジェクト開始から2カ月が過ぎた現在、モンスーンは終了して水没していた地域でも水が引き、ワラ郡では避難していた人の85%が元の村に帰還していると推定されています。しかし住宅、公共施設を含む建物、農耕地、家畜への被害は深刻で作物が全滅した地域も多く、被災者の生活の再建は容易ではありません。安全な飲み水やトイレも確保できないため衛生状態は相変わらず劣悪で、下痢、気管支炎、皮膚感染症のほかマラリアや蛇による被害も発生していますが、一部の医療保健施設はまだ活動を再開できる状況にはありません。種もみを食料にし始めた人たちもあり、住民の栄養不良が深刻になっています。避難民が滞在して授業を再開できない学校も少なくありません。

CAREは現在、住民が帰還した村を中心にハンドポンプやトイレの設置、巡回診療を継続しています。医師・女性医師助手・医療専門家各1名から成る診療チームが2つワラ郡内を巡回し、基本的な医薬品類を使った治療、およびより高度な治療が必要な場合には設備の整った医療施設への照会を行っており、1日に200人程が受診しています。また衛生状態改善と安全の確保を目的に水浄化剤、水瓶、バケツ、石けん、蚊帳、サンダル、マットレス、女性の生理用品を配布しています。対象は住宅被害が深刻で生活再建がより困難な未亡人、高齢者、障害者などの500世帯で、同時に女性スタッフによる水浄化剤の使用法を含む衛生教育を行っています。

(プロジェクトマネージャー 熊澤 ゆり)



# ケア・インターナショナル ジャパン 2007年度 事業計画

## ■ ビジョン

CAREは、貧困が克服され、人々が尊厳をもって安全に暮らすことのできる、希望に満ちた、寛容で公正な世界を目指します。私たちは、貧困の根絶に向けた世界的な動きの中で、グローバルな知見と起動力を発揮し、選ばれる存在となります。そして、人々の尊厳に対する私たちの揺るぎない姿勢が、世界中の人々に知られるようになります。

## ■ ミッション

CAREの使命は、世界の最も貧しいコミュニティにおける個人や家庭を支援することです。グローバルな多様性・資源・経験を強みとして革新的な解決策を導き出し、世界の一員として果たすべき責任について提言します。私たちは、次のことを通して持続的な変化を促します。

1. 自立のための能力を高める
2. 経済的機会を提供する
3. 緊急時に救援を届ける
4. あらゆるレベルで政策提言を行う
5. すべての形態の差別に取り組む

現地コミュニティの意志に導かれ、私たちは人々が享受するにふさわしい、質の高い、そして思いやりのある活動を通して使命を達成します。

\*ケア・インターナショナル ジャパンは、本年度から、CAREの組織全体が用いている英語のビジョン、ミッションの表現に沿った日本語表現を使用することにしました(基本的な考え方が変更になったということではありません)。

世界では、一日一ドル以下の貧困下で暮らす人の数が1994年から2004年の間に1.35億人減ったと言われていますが、依然として10億人の最貧困層が存在します。また、世界の非識字者の三分の二が女性であり、男女の格差はいまだに顕著です。2006年の時点でエイズとともに生きる人は4000万人、同年にエイズで命を落とした人の数は290万人に上ります。さらに、地球温暖化の影響により干ばつや洪水に悩まされ、安定した生活が脅かされているコミュニティが増加しています。

日本国内においては、これらの世界規模の課題に関する一般市民の関心が深まり、特に2008年に日本で開催されるG8サミット(主要国首脳会議)などにも関連して、さまざまなNGOが一般市民対象のキャンペーンや政策決定者へのアドボカシー活動を計画・実施しています。

## ■ 本年度の焦点

2004年9月にケア・インターナショナル ジャパンの長期計画「グランドプラン」の実施が始まり、2007年3月～4月にかけて中間レビューを行いました。その結果、今後さらなる財政基盤の強化をはかり、貧困解決への貢献度を高めるために、「人道支援(緊急・復興)」「HIV/AIDS」「女性と子ども」にフォーカスを当てていくことを決定しました。今年度から上記3つのテーマを、国際協力事業(緊急・復興・開発)、国内活動(アド

ボカシー、キャンペーンなど)およびマーケティング活動(ファンディング・広報)に反映させていきます。同時に、寄付・会費および協賛金・助成金などを組み合わせた適切な規模の事業を展開して、限られた予算の中での効率的な組織運営と活動効果の向上をはかり、日本国内およびグローバルなCAREのネットワークにおける当団体の特異性を生かした貢献方法を模索していきます。

## ■ 支援活動の概要

本年度は、現在実施中のカンボジア、ベトナム、スリランカ、アフガニスタンにおける事業に加え、昨年度から検討しているカンボジア、インドネシア、パキスタンの事業を開始します。また、初のアフリカ地域案件として、レソトでの事業の開始を目指します。緊急支援事業に関しては、アジア地域における自然災害の発生に備えるとともに、アフリカおよび中東の難民支援に関する情報収集を進め、今後の対応を検討します。

また、本年度の課題として日本の市民社会との連携を掲げ、日本で活動を展開する団体・企業・学校などとの関係構築、2008年度に日本で開催されるG8サミット(主要国首脳会議)やTICAD IV(第4回アフリカ開発会議)に関連するNGOネットワークへの参加などを行っていきます。

## ■ 活動計画

### 1. 開発支援事業

#### ① コミュニティのための人材育成事業 (女子教育奨学制度事業Ⅱ)

**対象地域:**カンボジア カンダール州ルックダイク地区  
**対象者:**女子教育奨学制度事業で高校に進学した奨学生  
**実施期間:**2004年10月～2007年9月  
**主支援者:**ケア・フレンズ岡山  
ケア・フレンズ東京

この事業は、前事業の女子教育奨学制度事業で高校に進学した奨学生62名が、就学を継続し、コミュニティの発展に役立つ知識・技能を身につけることを目標としています。

本年度は、奨学生たちの高校課程の修了を支援すると同時に、コミュニティに必要な知識・技能を習得し、それをコミュニティの人々と共有するための活動を継続して行います。2007年8月の卒業資格認定試験の終了後、コミュニティでのワークショップなどを実施して、この事業は終了します。

#### ② スマトラ沖津波復興支援 子どもの心のケアプロジェクト

**対象地域:**スリランカ 南部州  
ハンバントタ県アンバラントタ、  
ティッサマハラマ、スーリヤウエフ  
**対象者:**アンバラントタ、ティッサマハラマ、  
スーリヤウエフの津波で直接的・間接的な  
被害を受け、子どもの心理的・精神的な問題  
が深刻であると判断された6村の約600世帯  
3000人  
**実施期間:**2005年4月～2008年3月  
**主支援者:**一般寄付、学校、日産自動車株式会社

この事業は、2004年のスマトラ沖津波により被災した子どもたちの心の傷が癒され、心身ともに健全な生活を送ることができるようになることを目標としています。

本年度は、最終年度として、昨年度に引き続き被災地域のコミュニティの子どもの心理的・精神的ニーズに着目し、学習を再開、継続するための支援を行います。また、支援が終了した後もコミュニティが子どもを支える活動を継続できるよう、コミュニティ・ボランティアなどの能力向上のためのプログラムを実施します。

#### ③ コミュニティ運営による 初等教育プロジェクト

**対象地域:**アフガニスタン 南東部および中央部の  
遠隔農村地域  
**対象者:**アフガニスタン 南東部および中央部9州  
の遠隔農村地域の教員、コミュニティの  
人々と生徒3038名および地方教育行政機関  
**実施期間:**2004年7月～2008年6月  
**主支援者:**ケア・フレンズ岡山(山陽放送株式会社)

この事業は、教員・コミュニティ・地方教育行政機関の能力を高め、コミュニティ運営による学校での活動を通して遠隔コミュニティの生徒が質の高い初等教育を受けられることを目標としています。

本年度も、教師やコミュニティ関係者への研修、生徒への教材を提供する活動を継続して行います。

#### ④ カントー橋建設にかかる HIV/AIDS予防事業

**対象地域:**ベトナム カントー県カントー市  
**対象者:**カントー橋建設に関わる移動建設労働者  
と周辺コミュニティの人々  
**実施期間:**2006年2月～2008年2月  
**主支援者:**大成建設・鹿島建設・新日本製鐵JO  
(契約先)

この事業は、移動建設労働者と周辺コミュニティの人々のHIV/AIDSなど性感染症のリスクを減少させることを目標としています。

本年度は、昨年度に引き続き、ヘルスワーカーや仲間に対して感染防止を働きかける役割を担うピア・エデュケーターを育成しながら、建設労働者と性産業従事者への情報提供、啓発活動、コンドームへのアクセス改善に向けた施策などを継続します。本年度は最終年度にあたりますが、2008年2月に事業終了後、カントー橋の完工まで約10カ月を残すことになるため、約8カ月の事業延長に向け、関係者への働きかけを行います。



## ⑤ 紅茶農園内住民組織の 運営能力向上プロジェクト

**対象地域:** スリランカ 中央州およびウバ州にある15の紅茶農園  
**対象者:** 紅茶農園における住民組織 約100グループ (4500人)  
 \*間接的には、農園居住者 約40,000人を含む。  
**実施期間:** 2006年7月~2008年6月  
**主支援者:** 国際協力機構(JICA)

この事業は、社会的・経済的に外部社会から隔絶された状況にある紅茶農園住民の生活改善を目指した前事業に続く事業です。農園内で行き届いていない公共サービスを紅茶農園住民が活用できるよう、住民組織の運営能力を向上させること、および農園外部からの行政・商業サービス(地方行政、郵便、銀行、地元NGOなど)との連携を定期的なものにし、社会保障システムを強化することを目標としています。

本年度は、昨年度に引き続き、インフォメーション・センターを活用しつつ、住民組織へのトレーニングやミニプロジェクトを実施します。また、本年度は最終年度にあたることをふまえ、農園内外の社会・行政サービス団体や組織とのネットワーク強化に努め、農園での活動やサービス提供に向けた働きかけを行います。

## ⑥ HIV/AIDS と人権プロジェクト

**対象地域:** ベトナム ハノイ市、ホーチミン市、クアン・ニン県  
**対象者:** HIV陽性者、医療従事者、政策策定者  
**実施期間:** 2007年5月~2008年6月(全体で3年間を予定)  
**主支援者:** 日本郵政公社、一般寄付  
 (契約先)

この事業は、HIV陽性者が感染による健康状態の悪化によって弱者となるだけでなく、社会・経済的差別により虐げられている状況を克服すること、また、医療従事者や政策策定者の中でHIV陽性者に対する理解が深まり、人権が確保されるようになることを目標としています。

本年度は、対象地域のHIV陽性者、医療従事者、政策策定者それぞれに対する意識向上をはかるため、ワークショップやパイロット・プロジェクトの実施、教材・ハンドブックの作成・配布などの活動を展開します。

## 2. 緊急・復興支援事業 ジャワ島地震復興支援 住宅再建プロジェクト

**対象地域:** インドネシア 中部ジャワ州クラテン県  
**対象者:** 15世帯 約70人  
**実施期間:** 2007年4月~2007年8月  
**主支援者:** 一般寄付  
 \*この事業は、同地区において実施した復興支援事業「水と衛生プロジェクト」「保健衛生改善プロジェクト」に続くプロジェクトです。

この事業は、2006年5月に発生したジャワ地震の被災者の中でも、特に住宅再建が困難な経済的・社会的弱者を対象として、専門的なデザイン、質のよい資材、技術者へのアクセスを改善すること、また、地元の経済システムと労働者を活用しながら建材などを支給することにより、耐震住宅の再建を支援することを目標としています。本年度は、住宅再建を完了し、新しい住宅で被災者が生活を始めることができるように活動を進めます。

## 3. 新事業の開拓

事業資金の調達状況を踏まえつつ、外務省やJICAなどの政府系助成金への申請を行い、新たにカンボジア、パキスタン、インドネシア、レソトなどにおける事業の開始を目指します。緊急支援事業については、ジャパン・プラットフォームと連携し、主にアジアにおける自然災害発生時のタイムリーな出動を検討します。また、中東やアフリカ地域における難民支援に関して情報収集を行い、事業形成の機会を得るよう努めます。その際、CAREの組織全体の緊急支援方針や緊急支援体制の中で、ケア・インターナショナル ジャパンとして効果的・効率的に活動できるよう、ネットワークの中での連携や協力関係を強化します。

## 4. その他

2008年に日本での開催が予定されているG8サミット(主要国首脳会議)とTICAD IV(第4回アフリカ開発会議)およびこれらに関連する国際会議に向け、2007年度に加入した「2008年G8サミットNGOフォーラム」と「TICAD IV・NGOネットワーク」を通して、ほかのNGOやケア・インターナショナルと連携しつつ、アドボカシー活動を継続します。また、外務省と保健分野で活動するNGOによるGII/IDI懇談会、JICA・NGO協議会、日本UNHCR・NGO協議会などへの参加を継続するとともに、当団体の重点分野である「人道支援」「HIV/AIDS」「女性と子ども」に関連するアドボカシーやキャンペーンに積極的に参加していきます。

国際理解教育に関しては、カンボジアにおける若い世代を対象とする事業やレソトにおける小学校を対象とする事業などに関連し、日本の学校にCAREの事業を紹介し、国際協力への理解を深める機会を提供します。

## ■ ケア・インターナショナル ジャパン 支援組織講演会

6月10日(日)にケア・サポーターズクラブ大分の講演会・総会が開催されました。一年間の活動報告が行われ、来年の計画が承認された後、大分出身の書家、柏木白光氏がダイナミックな筆さばきをご披露されながら、ユーモアに溢れたお話をしてくださいました。アメリカ、フランス、イスラエル、そしてネパールと、世界中を飛び回り、「書」を通して平和のメッセージを訴え続けていらっしゃる柏木氏が大きな屏風に大きく書かれた書は「愛」。生きていく上でいろいろな困難に直面するけれども、お互いに助け合ってそれを乗り越えていくことの尊さを語られ、多くの参加者の心を打つお話でした。

6月13日(水)には、黒柳徹子氏を講演者にお迎えしてケア・フレンズ札幌の講演会が開催されました。今回は同組織の5周年ということで、800人近くの方が出席されました。タンザニアやエチオピアなどアフリカを中心に24年間も支援活動の現場を目の当たりにされてきた黒柳氏の、途上国で起きていることに「関心をもつ」ことがいかに重要かというお話は、大変説得力があるものでした。なお、ケア・フレンズ札幌の皆様から多大なご寄付をいただきましたことに、心より感謝いたします。

## ■ 広島平和記念資料館にて60年前の 「ケア・パッケージ」を展示

1945年当時のCAREの活動の象徴であり、実際に60年前に配布された「ケア・パッケージ(ケア物資)」が7月25日~10月31日までの間、広島平和記念資料館に展示されました。

広島平和記念資料館では、年2回、企画展を開催しており、平成19年度第1回企画展として「海外からの支援-被爆者への援助と込められた再建への願い」を開催しました。企画展は、物質面と精神面の両面で被爆者と広島復興を支えた海外からの支援や国内で支援に関わった人々などに焦点をあてたもので、広島に寄せられた支援の一つとして「ケア・パッケージ」が紹介されました。会場には、当団体がドイツから取り寄せた60年前の「ケア・パッケージ」および中に入っていた物資のサンプルが、戦後の日本でケア・パッケージを受け取った人々の写真数点とあわせて展示され、広島を訪れる人々に当時のCAREの活動について知っていただくよい機会となりました。



\*当団体では、当時、ケア・パッケージを受け取られた方やケア・パッケージに見覚えのある方からの情報を求めています。情報提供いただける方は、当団体事務局までご連絡ください。



## ■ 世界難民の日イベントに参加



6月20日の世界難民の日(World Refugee Day)に国連大学で行われたイベントに出展し、CAREブースにてCAREグッズや民芸品の販売などを行いました。スターバックス コーヒー ジャパン 株式会社様からはコーヒーをご提供いただき、大変好評でした。また、UNギャラリーでの展示に出展し、CAREがインドネシアにおいて実施した「マドゥーラ避難民の生活復興支援プロジェクト」の写真を多くの来場者の方に見ていただきました。

また、6月24日には、味の素スタジアムにて「世界難民の日・J-FUNチャリティーサッカー2007」が開催されました。東京ヴェルディ1969のご協力を得て、味の素スタジアムにおける試合会場にてJ-FUN参加団体とともに特設ブースを設け、募金協力の呼びかけなどを行いました。

上記2つのイベントにて集められたご寄付は、当団体の活動に役立させていただけます。募金にご協力いただきました皆様、ありがとうございました。

\*J-FUNとは、UNHCR(国連難民高等弁務官)駐日事務所と国内外で難民支援の活動を行うNGOなどのゆるやかな連携の枠組みです。



## ■ グローバルフェスタ JAPAN 2007に参加

10月6日(土)と7日(日)に日比谷公園にて、毎年恒例の国際協カイベント「グローバルフェスタ」が開催されました。今年のCAREブースでは、「緊急支援」「HIV/AIDS」を主なテーマとしてパネル展示などを行い、CAREの緊急支援活動やHIV/AIDSに対する取り組みについて来場者に説明するとともに、ワークショップでは、パキスタンにおける緊急支援活動について実際に現地で配布している支援物資を見せながら報告を行いました。また、今年も企画したクイズは大好評で、多くのブース訪問者やJ-FUNスタンブラリー\*参加者がクイズに挑戦してくれました。これまでCAREのことについて知らなかった多くの方に、少しでもCAREの活動について知っていただけたのではないかと思います。

今年も多くCAREボランティアさんに支えられ、ブースを盛り上げることができました。ご協力いただきました皆さん、ありがとうございました。

\*今年のグローバルフェスタでは、J-FUN(上記記事の注釈参照)参加団体によるスタンブラリーが行われ、CAREはスタンブラリーに参加しました。スタンブラリーは、各団体のブースをまわり、クイズなどに参加することで活動について知ると同時に、スタンプを集めていくという企画です。



### タイにおいてCAREと日本企業の連携による事業を実施

タイ王国は、HIV/AIDSが深刻な国の中でHIV/AIDS予防対策キャンペーンが成功した数少ない国と言われていますが、HIV陽性者への偏見や差別、都市部と農村部との格差などいまだに問題が多いのが現状です。

CAREは10年以上のHIV陽性者支援活動を通して、陽性者を家族に持つ子どもが精神的に不安定になりやすいことがわかりました。これは家族が子どもの面倒を十分に見られないことや、同年代の子どもにからかわれたり、他の子どもたちから隔離されたりすることが原因です。

そこで、CAREのメンバーであるラックスタイ財団は、タイ北部のパヤオ地

区でHIV/AIDSによって困難な立場におかれた子どもたちが、社会的なスキルを身につけ、自信を持つようになり、生きていく上で必要な能力を高めることを目的とする「子ども活動センター」を設立しました。活動内容は文化的な活動や職業訓練、僧侶を招いての道徳教育など多岐に渡ります。

この度、株式会社ティアーズ・ブレイン様からのご寄付により、上記活動や建物の修繕などを含む5つのセンターへの支援が実現することで、今後より充実した活動が可能になります。

## テトゥン語民話集出版プロジェクト最新報告 東ティモール民話集が ついに出版されました！

### ■基本情報

活動期間： 2007年1月～2007年4月(4カ月間)

地域： 東ティモール全域

対象者： 東ティモールの全小学生(257,999人)と教員。配布先は全小学校および図書館

関係者： 教員、コミュニティ、地方教育行政機関

支援者： 協賛企業および一般寄付(この事業は、花王株式会社、花王ハートポケット倶楽部、株式会社毛利建築設計事務所、ティアシステム株式会社、飛鳥建設株式会社、株式会社スミロン山本様からの事業協賛を受けました。)

事業規模： 850千円

2002年に独立を果たした東ティモール。16世紀からポルトガル、その後インドネシアに統治され、長い植民地時代下での言語統制は、母国語であるテトゥン語を含む東ティモール人のアイデンティティの喪失という問題を生み出しました。

こういった問題に対応すると同時に、出版物が極端に少ない東ティモールにおける教材不足を補うため、CAREは2000年にテトゥン語による初の教育誌「ラファエック」を創刊し、全国の小学校を通じて全児童に配布しました。これは半数以上の子どもが一冊も教科書を持っていない状況において唯一、子ども一人ひとりが所有できる本となりました。

このプロジェクトでは、ラファエック誌上での公募により、テトゥン語初の民話集を作るための活動を行っていました

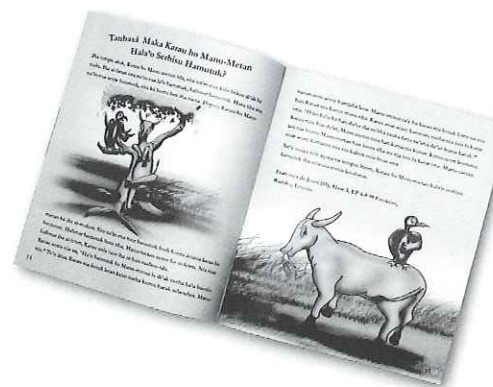


子どもたちが記録を担当し、出版されたテトゥン語初の民話集

が、この度、ついに民話集が出版されました。各家庭で代々語り継がれてきた民話が集められ、子どもたちがその民話の記録を担当しました。他援助機関からのご支援もあり、最終的に民話集は30,000冊制作され、読み物および教材として活用されるよう、この事業の対象者である東ティモールの全小学生と教員に配り、また、コミュニティの図書館にも配布しました。

このプロジェクトでは、子どもたちの作文能力の向上や読み書きの促進、新たな教材の提供による教育の質の向上とともに、独自の文化の再認識に貢献することを目的として実施しました。この場を借りて、ご支援いただきました皆様から心からお礼を申し上げます。

(事業部 竹中 宏美)



## 私スタイルの CAREライフ

CARE ボランティアメンバー  
稲垣 佳奈



日比谷公園にて毎年、開催されているグローバルフェスタにて、ほかのボランティアさんと(左から3番目が筆者)

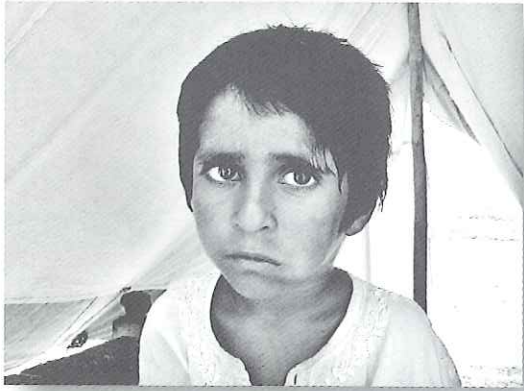
学生時代から人権問題に興味があり、卒業後はNGOなどで働きたいと強く思い、就職活動をしたものの、気づいたら他の業界で仕事を始めていた。毎日の仕事に没頭しつつ学生時代の思いを大切にしたいと考え、2年前、ケア・インターナショナル ジャパンの週末ボランティアに応募してみた。

初めて参加した大きなイベントは日比谷公園にて開催された「グローバルフェスタ JAPAN」であった。さまざまな思いを抱え、参加しているほかのボランティアの方々と交流する貴重な機会に加え、CAREのブースに足を止める人たちと話をするのは私にとっては今までにない新鮮な体験であった。日本ではあまりNGOなどの活動が活発ではなく、市民活動も消極的なイメージが先入観としてあった私にとって、このイベントに参加するCAREを含めた多数のNGOの職員や来客した一般の方々や接することは、広がりつつある新しい領域に踏み入れた気分であった。

最近は毎日の仕事に追われ、週末ボランティアにも参加できずにいるが、翻訳の手伝いを通してCAREの活動に参加させてもらっている。翻訳作業を通してCAREの世界各国における活動内容について学び、日常生活の中では思いも及ばない貧困や人道援助について考えることは、人のために自分が何をできるかということを考える貴重なきっかけにもなっていると思う。

どのような形で参加する場合でも、CAREでは自分の出来る範囲のボランティア活動に意義を見出すことができるのではないかと考えている。最初は誰かのために何か自分のことをしたいと思い始めたボランティアだったが、気づいたらCAREの活動を通して新鮮な感覚が磨かれ、自分を見つめ直す機会にもなっている。





## CAREストーリー ～ パキスタン ～

### 両親も家も失い、自らの命も危機的状況に置かれた少年がCAREの支援を受けて…

5歳のBakhatは、パキスタン南部のシンド州の村に両親と住んでいました。父親は村の地主のために農地を耕し、母親は裕福な家のお手伝いさんとして働いていました。しかし、2年前、Bakhatは両親を失いました。両親は結核にかかっていたのですが、医者にもてもらうお金も、薬を買うお金もなかったのです。孤児となってしまったBakhatは、叔父の家に移り住み、家事や家畜の世話などをして働きました。しかし、7月に激しい大雨が近くの湖の水位を押し上げ、周囲の村に洪水を引き起こしました。洪水は、Bakhatと叔父が住んでいた家を破壊し、二人は家を失いました。

現在、Bakhatは、10キロ離れた道路脇のテントで暮らしています。Bakhatと叔父は、水が引いて、元の場所に戻るのを待っています。Bakhatが住む避難場所の水は、洪水によって汚染されており、Bakhatは皮膚感染に苦しみ始め、水を飲んだ後はすぐに熱を出し、ひどい下痢に悩まされました。

Bakhatは、CAREの現地パートナー団体によって設置された診療所による緊急治療を受けなかったら、命を落としていたかもしれません。彼が診療所を訪れたときは、下痢によるひどい脱水状態になっていましたが、簡単な治療で、彼はすぐに元気になり、また走り回れるようになりました。それ以来、Bakhatは、完全に回復したことを確認するために診療所を定期的に訪れ、検査を受けています。最近、診療所を訪問した際にBakhatは、自分のような子どもたちの命を救うために医者になる決意をした、と診療所の医者たちに話しています。

また、Bakhatは、避難所にCAREが設置した子ども向けの娯楽センターを楽しんでいます。「センターの先生たちは本当に優しいんだ。歌を歌ったり、色塗りをしたり、ゲームをしたり、いろんな活動があるんだよ。手を洗うことや歯を磨くことの大切さも学んだ。家に帰ると、先生が言ったことを思い出すんだ。もう病気にはなりたくないから。このセンターにいと、自分の家や村に起きたことを忘れられるんだ。ありがとう、CARE！」

# CARE Notice Board

## 定期支援のお願い

ケア・インターナショナル ジャパンでは、毎月、決まった金額をご支援いただく、「CARE マンスリー・ギビング・プログラム」にご協力いただける方々を募集しています。継続的で安定したご寄付は、途上国の人々の自立を助けるという息の長い活動を、より確実に、より効果的に進めることを可能にしてくれます。ぜひご協力をお願いいたします。

## CAREマンスリー・ギビング・プログラムとは

1000円単位でご自由にお決めいただいた定額寄付金を、毎月1回、ご指定の金融機関や郵便局の口座から自動的に引き落とすことで、継続的にCAREの活動をご支援いただく制度です。なお、自動引き落としに手数料はかかりません。また、ご連絡いただければ、寄付額の変更やご寄付の停止にもすぐに対応いたしますので、安心してご参加ください。

## CAREマンスリー・ギビング・プログラムに参加いただいた方には

世界各地で行われている支援活動についての最新情報やコミュニティの人々の生の声などを紹介するニュースレターを随時お届けするとともに、年1回発行する「年次報告書」で、ケア・インターナショナルジャパンの活動内容や運営状況について詳しくご報告いたします。

そのほか、個人賛助会員(年会費 1口 10,000円)や個人準賛助会員(年会費 1口 5,000円)も随時募集しています。

「CAREマンスリー・ギビング・プログラム」や会員制度への参加をご希望の方は、以下までご連絡ください。すぐに、関係資料をお送りさせていただきます。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

(財)ケア・インターナショナル ジャパン  
募金・個人会員担当  
TEL: 03-5950-1335 FAX: 03-5950-1375  
E-mail: [monthly@careintjp.org](mailto:monthly@careintjp.org)

ケア・インターナショナル ジャパン  
ニュースレター  
CARE World Vol.7  
2007年10月31日発行(季刊)  
発行人: 野口 千歳  
編集: 菅沼 みゆき

財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン  
〒171-0032  
東京都豊島区雑司ヶ谷2-3-2  
Tel. 03-5950-1335 Fax. 03-5950-1375  
E-mail: [info@careintjp.org](mailto:info@careintjp.org)  
[www.careintjp.org](http://www.careintjp.org)